

## 最終講義 徳大スポーツ 43年のあゆみ（バスケットボール部編）

The Footsteps of the 43 years of Sports at Tokuyama University

佐藤 英雄

創成期：昭和46年～昭和63年（城に例えると土台作りの時期）

充実期：平成元年～平成30年

発展期：次元号

本日の最終講義にあたり、歴代学長、そして、バスケットボール部のあゆみと各クラブの今・昔のお話をしていきます。

### I. 徳山大学の始まり

表1に歴代の学長先生の名前が書いてあります。現在、初代学長から岡野学長で八代目になります。私は、昭和50年4月、徳山大学に赴任しました。当時の学長は今田竹千代先生（二代学長）でした。その時代の話からしていきたいと思います。

まず、最初の徳山大学がいつから始まったか、というのが昭和44年です。まだ徳山市と言っていた時に、徳山市議会が学校法人中央学院大学というところで大学を誘致しました。そして、徳山市から建設資金とか建造補助金などで2億8千万円ほど補助を得ました。その後、昭和49年、私が入るちょうど1年前、株式会社出光興産の出光佐三さんから、徳山大学に2億6千2百万円寄付されました。こうして、昭和46年に徳山大学経済学部の単科大学として入学定員200名でスタートしました。

私が昭和50年に来たとき、校舎は本館（研究棟）が現在の半分、1～3・5～7号館・研究棟（現在の半分）・図書館・総合研究所（1階に食堂）でした。今の8号館、野外ステージ、記念館などありません。あとは砂地があるだけで

した。今の施設とは全然違います。私は当初、学校へ来るときにタクシーで「徳山大学へ行ってください」と言ったら、運転手は徳山大学を知らないと答えました。地元に住んでいて徳山大学を知らない、「ああ、そうか。徳山大学ってこれほどの知名度しかないんだな」と当時思いました。当時は、山陽新幹線も通っていません。岡山から東京までの区間しか通ってなかった時代です。山陽自動車道も開通していない状態で、大学までの通勤は徳山駅から大学マイクロバスにて通っていました。主たる道路たるものがなくて、山の中にポツンとあるという、非常に寂しい大学でした。

最初の卒業生である第1期生は、昭和50年、私が来た当時ですが、126名でした。現在のOB・OGは何名ぐらいいると思いますか？平成29年3月で、16,179名の卒業生がいます。その当時、私は大学寮の寮監を引き受けて、学生と生活した場所、今の新南陽政所というところに住んでいました。そこに日下医院という元産婦人科があり、学生と私たちが努力して工夫しながら生活していました。手術室はあるし、お風呂は五右衛門風呂、部屋も昔の産婦人科の部屋で、だいたい8畳くらいに2人ないし3人で学生が住んでいました。そういう寮生活をずっとしていましたが、学生たちも、君たちの祖父くらいの歳になりましたが、いまだにその当時の楽しい寮生活が浮かんでくるのではないかと思います。現在、日下寮は、ちょっとお洒落な喫茶店（2018年1月時点）になっています。喫茶店をやっている場所はちょうど私が寝起きしていた場所です。機会があればそちらの方に行ってみてください。

## 表1 歴代学長について

---

**初代学長：**湯村 栄一 先生 昭和46年4月1日～昭和47年10月30日  
昭和46年 本館・総合研究所・図書館・1号館～3号館・グラウンド（土）  
昭和47年 5・6・7号館

**二代学長：**今田 竹千代先生 昭和47年11月1日～昭和56年12月31日  
昭和49年 運動具塚（3号館裏）：3年に1回運動具に感謝を込めて、行う行事  
（昭和56年：創立10周年）：記念館完成

**三代学長：**高村 坂彦 先生 昭和57年1月1日～昭和58年3月31日  
元徳山市長 時代に大学誘致を決定する。本学の創設者  
息子の高村正彦（元自由民主党副総裁：2017年に引退）  
松陰模築～遊歩道に高村先生の銅像がある。（平成2年）

**四代学長：**不破勝 敏夫先生 昭和58年4月1日～昭和63年12月3日  
昭和62年須々万グラウンド完成 昭和62年徳山女子短期大学開学

**五代学長：**村田 憲太郎先生 昭和63年12月3日～平成3年5月25日  
（平成2年：創立20周年）

**学長代行：**三好 啓治先生（理事長兼務） 平成3年5月26日～平成6年3月31日  
平成4年孝田町グラウンド用地造成工事起工式

**六代学長：**浅野 一郎先生 平成6年4月1日～平成12年9月30日  
平成7年孝田町：総合グラウンド完成（3種公認全天候陸上競技場）

**学長代行：**佐藤 昌良先生（理事長兼務） 平成12年10月1日～平成13年3月11日  
平成13年頃より、留学生を取り始める。

**七代学長：**杉光 英俊先生 平成13年3月12日～平成22年3月31日  
（平成14年創立30周年）第2記念館完成（孝田町）  
平成20年人工芝グラウンド（サッカー場）完成

---

## II. 徳大スポーツのあゆみ

### 1. クラブ活動の創成

当初は、硬式野球部、ラグビー部、テニス部、バスケットボール部、空手道部、応援団、サッカー部程度のクラブであったと思います。

そこから、昭和51年に剣道部監督：榊康守（当時練習場所がなく、地下足袋を履いて練習をしていた）、レスリング部監督：佐藤貞雄（モントリオールオリンピック出場）、昭和52年に陸上競技部（長距離・駅伝）監督：高倉正樹（早稲田大学出身、瀬古利彦氏と同世代）、昭和54年柔道部監督：吉岡剛（全日本

選手権出場、国際大会で優勝した成績をもつ）といった先生方が徳山大学創成期に着任されます。昭和 53 年には、硬式野球部にマツダから加藤岩夫氏を招き、二代目監督に就任されます。この頃、昭和 52・53 年には、8 号館、クラブハウスが完成しました。

当時、大学教職員全員で高校訪問を行っていました。教職員の草野球チームもあり、教職員で交流をもちながら、徳山大学を盛り上げようと尽力していました。これが、徳大スポーツの始まりです。この徳大スポーツの生みの親は、当時の法人本部長の故田島侃光先生（平成 26 年 3 月 26 日没）です。田島先生は、亜細亜大学野球部、大東文化大学陸上競技部・硬式野球部・レスリング部・スキー部、中部大学、松蔭大学女子バスケットボール部（4 年前の周南大会・インカレ優勝）など大学スポーツ部を強化する有名な先生であり、田島先生から、大学スポーツとは、また、指導者について等様々な面で勉強させていただきました。

徳山大学において、最初に全国大会に出場したのは昭和 52 年、硬式野球部の第 26 回全日本大学選手権大会です（中国予選において、私も外野手のノックをしました）。昭和 53 年には第 9 回明治神宮大会出場、以来、現在まで中国地区のリーダーとして頑張っています。また、レスリング部が西日本学生レスリング秋季大会において I 部優勝を果たします。このレスリング部は、米・カリフォルニア州選抜大学チームとの親善試合を 2 年に 1 回、平成 2 年まで（大学創立 20 周年）実施しました。さらに、昭和 54 年には、吉岡先生率いる柔道部が全日本柔道選手権大会に出場、空手道部が全国剛柔流正剛館選手権大会大学団体の部において優勝しています。昭和 55 年、中国 6 大学野球リーグが発足しました。その年、野球部が春季リーグ戦で完全優勝し、第 29 回全日本大学野球選手権大会に出場しています。文化部では、吹奏楽団が全日本吹奏楽コンクール山口県大会金賞を受賞しました。昭和 56 年、陸上競技部が全日本大学駅伝に初出場、平成元年には 10 年連続出場し、その後平成 19 年まで中国地区にて優勝しています。昭和 56 年には、柔道部が全日本学生柔道優勝大会に初出場以来、現在まで中国四国地区のリーダーとして活躍をしています。剣道部は、平成 3

年以來、全日本学生剣道大会に男女ともに出場しています。最もよかったのは、平成7年に男子が西日本大会優勝、全日本大学選手権3位、女子は、同年西日本大会3位の成績を収めました。剣道の現監督が、当時インカレ3位に入った時の選手、原川琢至氏（総務課職員）です。

## 2. バスケットボール部のあゆみ

昭和50年に男子バスケットボール部の監督に就きました。一昨年（2016年）まで法人本部長だった三嶋隆史氏がまだ学生時代の話で、ちょうど大学2年か3年になる頃でしたが、当時キャプテンをしていました。一緒にやって43年のつきあいです。だから非常に長いのですが、彼の時代に当然、体育館もありません。グラウンドの本当にもう砂場のところで、リングが1対あるだけで殆ど外で練習していました。週末に高校生や実業団との合同練習、近くの体育館を借りながら、細々とやっていました。

それで、昭和52年に8号館ができて、そこでバスケットのリング1台をおいて練習をやっていました。そこはハーフコートで、天井の高さは4mぐらしかありませんでした。普通10mぐらいいないといけないんですが、リングが3.5mですから、そこで練習をして撃つシュート撃つシュートが殆ど直線で飛んでいく、という環境で練習をしていました。

その後、昭和56年に10周年で記念館が建ちました。そして、ようやく本格的な練習ができるようになりました。当時、中国大会ベスト4やベスト8の結果しか出ず、昭和50年から10年くらい下積みのような生活をしながら、その当時になかなか成績が出ない中、学生部長佐原昌弘という先生がおられて（現周南市社会福祉協議会会長）、「昭和62年に女子の短期大学ができるので、女子の方をやってみんなか」と言われたのです。男子が成績の出ないときに、女子の指導はどうかということで非常に悩みました。女子の指導は初めてだったので、相当迷いました。そして、ちょっとやってみる形になって、そのときに短大の女子寮ができ、昭和62年の時に短大の寮監をしました。あの当時、30名くらいが寮にいました。一般学生と運動部学生。女子バスケットと柔道女子が2人

入って、うちの女子バスケットと柔道女子とお互い高め合いながら生活を送ってきました。そのとき、短大の1期生として山口県から8人の選手をとり、力のない彼女たちのいいところを伸ばしてずっと練習をやって、さあ徳山女子短期大学の入学式、になる前に8人全員私のところへ来て、クラブを辞めさせてほしいと言ってきました。それまでつらい練習をやっていたので、「辞めたいと言ったって、大学にまだ入学していないんだ」という話をして、それから、選手一人一人と面談しながら選手が納得するまで話をし、「それじゃあ8人全員で全日本を狙おう。2年以内に絶対行っちゃる」という話をしました。当時、ちょうど3ポイントシュートが採用される頃でした。そこで、オールコートでの3Pシュートを7本連続入ったら終わりだよ、という練習をして。終わるとだいたい5~6時間かかった。ある日の練習で、体育館でよし、今からアップやるぞとタイマーをおいて、一周30秒で50周走ります。走って、パタパタ、パタパタ選手が倒れていきます。でも、一生懸命選手たちが起き上がって頑張っている姿にこちらまで涙が出る、それぐらいの練習をして、それから、3メンというのがあるのですが、1日100往復、これをこなしていました。女子学生8人で行う。

そして一年目、大会で優勝できませんでした。ベスト4止まりでした。その次の年、2年目に1人、新入生が入り9人になります。県内の短大生18歳、19歳なんですが、9人でインカレ予選に挑み、結果として、その2年目に優勝して全日本に出場することができました。ほっとしました。嘘つきになるところでした。だから、いまだにその学生たちと会って、昔の話をするときにつらい練習の話が出てきました。「先生、鬼だったね」「いや、これ愛情なんだよ」と。その結果、全日本に行って、短大のチームはそこで終わりました。

その後、平成2年から大学チームを作りました。それから徳山大学の女子が、また平成4年に全日本へ初出場して、13年連続で全国へ行きました。それから、平成18、19、20年に3年連続全国へ行っています。だから、合計17回全国へ行っています。その中で、私が一番印象に残っている試合というのが、平成8年です。全日本インカレの対戦相手が筑波大学です。当時の関東2位ぐらいだ

ったのですが、東京代々木第2体育館で、残り1分まで徳山大学は63対62で勝っていました。それで、その1分の間に筑波大に2点入れられて1点差、そして、最後うちの選手がラストシュートを撃ったんですけれども、リングに嫌われて落ちて64対63で負けたというゲームがありました。この時に、代々木の体育館で「徳山大学頑張れ」というコールがたくさん出ていました。そういう負けをして、非常に悔しい思いをして、その後チームのレベルアップをしながら、関東、関西、東海のチームと互角に勝負できるようになりました。

男子も平成15年に初めて全日本インカレに行き、平成29年で12回行きました。男女合わせて29回全国へ行っているのですが、30回超えるまでどうにかやっていたらいいと思っています。男子の方は、平成15年から留学生選手を入れて補強していますね。留学生を擁して、今だとマジョック君という202cmの選手がいますが、留学生中心に今いる学生が頑張っています。

平成28年には、川瀬秀太君という若いコーチが入ってきました。この若いコーチのお父さんも本学の卒業生です。お父さんうちの大学でキャプテンをして実業団へ入ってキャプテンをやりましたが、その息子がまた、本学の男子を今一生懸命見て、頑張っています。私も応援しながらやっていたらなと思います。だから、いろいろな大会、中国四国九州3地区にしても、5回から6回優勝しています。それから、平成4年から中国大学連盟の理事長を今まで26年間ずっとやっておりますが、浅野先生（六代目学長）から、今までの学長先生には、私が理事長をしているので中国大学連盟の会長をお願いしています。その上の全日本大学連盟の特別顧問もいまだにやっています。岡野先生も大学特別顧問でおられます。

そして、バスケットボールの方で、昭和57年から平成13年まで山口県教員団の監督を行い、成年男子をやりながらの本学、それから成年女子のチームと15年間やっていました。国体にて天覧試合を2回ぐらい経験しましたが、いろいろな思い出もあります。それから、嬉しい話なのですが、昨年度（2017年度）全日本インカレで、私の母校の大東文化大学が初優勝しました。インカレで初

優勝するのに50年かかりました。徳山大学は43年ですので、まだ50年には7年あるので、頑張って日本一目指してやってもらいたいと思います。

### 3. クラブ活動の充実

サッカー場完成後（平成20年人工芝グラウンド完成）、男子サッカー部は、昭和63年、第12回総理大臣杯全日本トーナメントに初出場し、その後、チームの強化が進み、結果を出しています。また、女子サッカー部は平成20年に創立し、今年（2018年）で10周年になります。平成27年には全国大学女子サッカー選手権大会において4位に入る素晴らしい結果を出しました。また、ユニバーシアード大会に選出されるような選手を育てています。現在、大学を牽引するチームの一つと言えます。

昭和から平成にかけて、徳山大学スポーツがいかに発展してきたのか、現役  
の学生諸君は、多少なりとも理解したと思います。まだまだ、ラグビー、ゴルフ、アーチェリー、テコンドー、カバティーほかたくさんの運動競技部があり、ラグビー部は、昭和64年全国地区対校戦へ初出場、平成10年、11年には全国地区対校戦において優勝、ゴルフ部は、平成3年全国大学対校ゴルフ選手権初優勝、プロ選手も輩出しています。アーチェリー部は、平成22年全日本学生アーチェリー王座決定戦初出場、カバティは、平成16年全国学生カバティ選手権大会4位に入り、アジア大会の代表にもなりました。さらに、テコンドーでは平成28年リオデジャネイロオリンピック出場（濱田真由選手）、フットサル部は平成28年山口県選手権大会に準優勝し、中国大会に出場しています。練習も21時から23時まで続け、徐々に力をつけています。

### Ⅲ. 終わりに

本学も創立50周年まであと少しになります。今後、より一層の努力をしていただき、地域とともに発展していただきたいと思います。徳大スポーツのこれからの飛躍を楽しみにして、サポートもしながら応援をしたいと思います。



最後になりましたが、大学教職員、学生諸君、OB、OGの方々、地域の関係者各位に感謝し、最終講義を終わりたいと思います。

ありがとうございます。

#### 付記

本稿は、平成30年1月25日実施の授業「スポーツ科学Ⅱ(b)」における講義内容をまとめたものです。授業の逐語記録をベースとしたものの記録のない箇所については、これを講義抄録から補いながら、紙数に収まるよう加筆修正を行いました。なお、本稿執筆にあたって、宇土昌志講師（宮崎大学教育学部）が協力したことを付しておきます。

#### 【参考資料】

徳山大学十年史編集委員会(1981)『徳山大学十年史』第一法規出版